

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年2月22日
 北海道運輸局

評価対象事業名: 令和3年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
今金町地域公共交通活性化協議会	有限会社 東ハイヤー	予約バス「ルンるん号」 八東・白石地区 金原・豊田地区 日進地区 田代・稲穂地区	・広報紙面やチラシの配布等を行い、利用促進を図った。 ・市街地エリアでの乗車を継続して実施した。	A	A	・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤ設定の見直しなどを検討する。 ・広報紙面やチラシの配布等継続した情報発信を行い、利用促進を図る。	(令和4年度分と併せて評価)	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年2月22日
北海道運輸局

評価対象事業名: 令和4年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
今金町地域公共交通活性化協議会	有限会社 東ハイヤー	予約バス「ルンるん号」 八東・白石地区 金原・豊田地区 日進地区 田代・稲穂地区	・広報紙面やチラシの配布等を行い、利用促進を図った。 ・市街地エリアでの乗車を継続して実施した。	A	B	・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤ設定の見直しなどを検討する。 ・広報紙面やチラシの配布等継続した情報発信を行い、利用促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。 ・一部の系統では利用者が増加しているものの、全体では減少したことで目標を達成することができなかったため、作成中の地域公共交通計画において、利用者ニーズにあった交通体系の検討や利用促進施策の構築を期待する。 ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。 	

今金町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

今金町は人口の約2割が75歳以上の高齢者であり、その割合は更に増加することが予想されるため、現在の自家用車中心の地域交通のままでは今後日常生活において不便が生じる世帯が増加することが懸念される。

このため、町内の交通不便地域の解消を図ることを目的として、地域間幹線系統(函館バス瀬棚線)に接続する地域内フィーダー系統のデマンドバスを運行し、地域の生活交通ネットワークの構築を進めるところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

令和3年度と比較し、利用者数が減少したことから、前年度申請と同等以上の利用実績を目標とする。

予約バス「ルンるん号」全体の利用者数 3,750 人

令和4年度事業概要

予約バス「ルンるん号」【八東・白石地区】【金原・豊田地区】【日進地区(補助対象外)】【田代・稲穂地区】

- ・運行形態: デマンド型フィーダー路線
- ・運行事業者: 有限会社東ハイヤー
- ・運行日: 平日、土曜日(日曜日・祝日は運休)
- ・運賃: 1回(片道)200円

地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社(町内1路線)
～国鉄廃止に伴う代替幹線バス路線
- ・スクールバス
- ・患者輸送バス

協議会開催状況

令和4年6月13日 令和4年度第1回協議会を開催(書面会議)

- ・本計画の承認

令和4年7月13日 令和4年度第2回協議会を開催
・役員を選出、収支決算及び収支予算案の承認 等

令和4年11月11日 令和4年度第3回協議会を開催
・地域公共交通計画(素案)提示、事業評価の承認

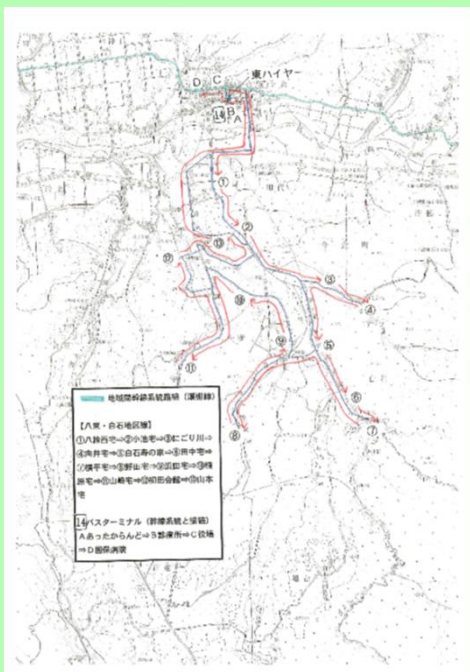
令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・フィーダー路線のエリア選択は、平成25年度実施の今金町地域交通サービス導入調査及び地理的事情に勘案し決定。
- ・前年度に実証調査運行を行い、最終的なダイヤを決定。
- ・地域住民説明会の開催、町広報紙による周知、運行地区全世帯への時刻表の配布、患者輸送バスに同乗し制度切り替えの説明等により、住民周知を行った。
- ・平成30年4月より、複数名又は団体による一括予約やファックスでの予約を可能とし、より利用しやすい受付体制を整えた。
- ・令和元年7月より、これまで下車のみであった市街地エリアでも乗車を可能とし、継続して運行を実施した。

2) 運行系統

八束・白石地区



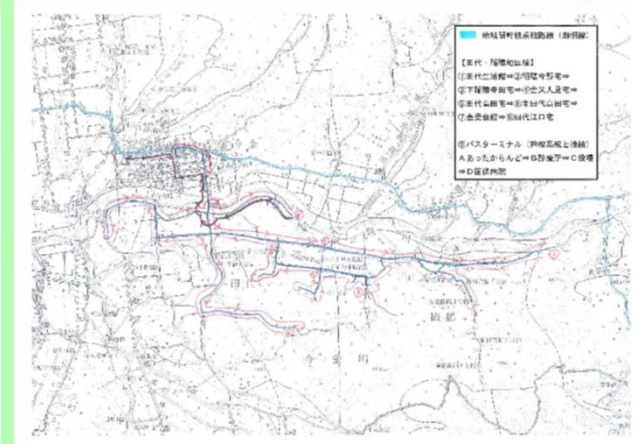
金原・豊田地区



日進地区

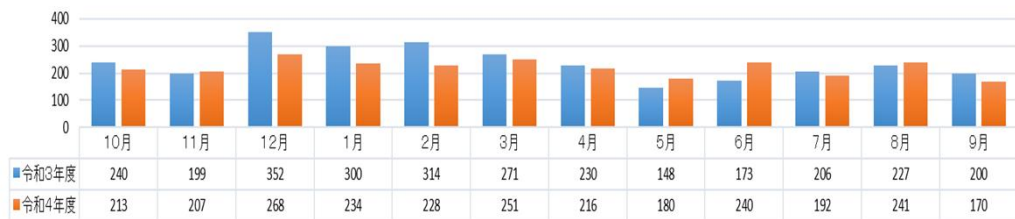


田代・稲穂地区



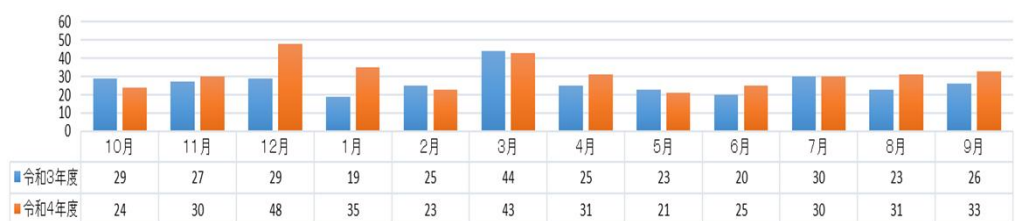
3) 利用実績

八束・白石地区



合計 ■ 令和4年度 2,640人 ■ 令和3年度 2,860人 ※ 堺り最終便(補助対象外)利用者3人を含む

金原・豊田地区



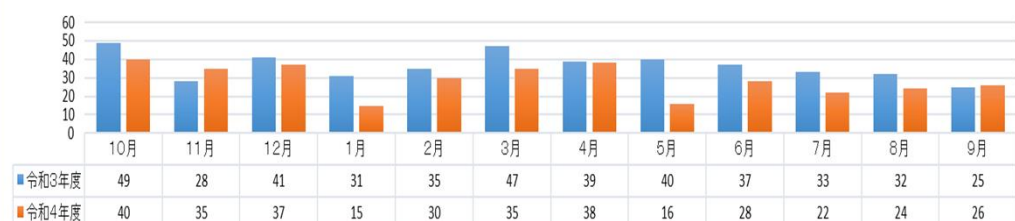
合計 ■ 令和4年度 374人 ■ 令和3年度 320人

日進地区(補助対象外)



合計 ■ 令和4年度 5人 ■ 令和3年度 4人

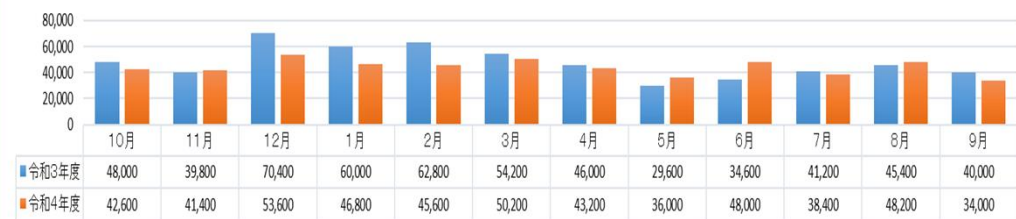
田代・稲穂地区



合計 ■ 令和4年度 346人 ■ 令和3年度 437人

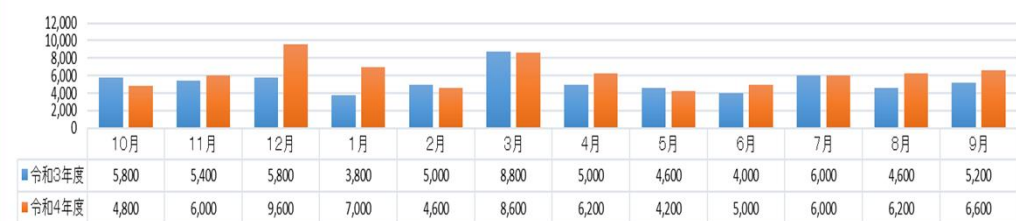
4) 収入実績

八束・白石地区



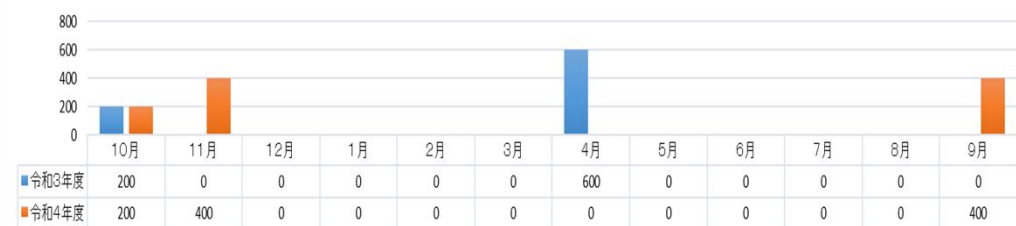
合計 ■ 令和4年度 528,000円 ■ 令和3年度 572,000円 ※ 堺り最終便(補助対象外)料金600円控含む

金原・豊田地区



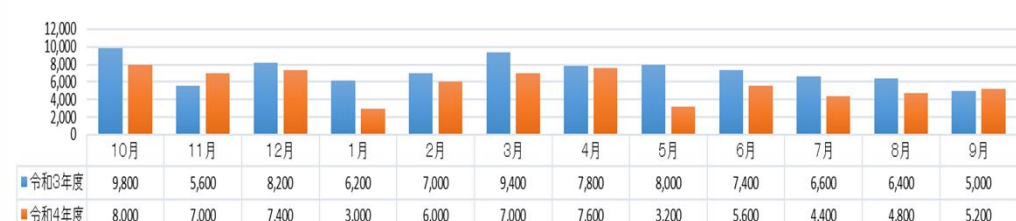
合計 ■ 令和4年度 74,800円 ■ 令和3年度 64,000円

日進地区(補助対象外)



合計 ■ 令和4年度 1,000円 ■ 令和3年度 800円

田代・稲穂地区



合計 ■ 令和4年度 69,200円 ■ 令和3年度 87,400円

5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

金原・豊田地区及び日進地区については昨年度と比較して利用者が増加しているが、全体では約10%減となっており、新型コロナウイルス感染症の影響及び日常的に乗車していた利用者の対象地区外への転居や人口減少の要因もあり、目標を下回った。

目標: 3,750人/年

実績: 3,370人/年 (89.9%)

7) 事業の今後の改善点

- ・利用者への聞き取り等によりニーズを適切に把握し、ダイヤや設定の見直しなどを検討する。
- ・広報紙面やチラシの配布等継続した情報発信を行い、利用促進を図る。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・一部の系統では利用者が増加しているものの、全体では減少したことで目標を達成することができなかったため、作成中の地域公共交通計画において、利用者ニーズにあった交通体系の検討や利用促進施策の構築を期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (地域公共交通調査等事業)

令和5年2月22日

北海道運輸局

協議会名:今金町地域公共交通活性化協議会

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③計画策定等に向けた方針、 又は事業の今後の改善点	評価結果	
今金町地域 公共交通活 活性化協議会	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通計画(案)の作成 ・関係者ヒアリング・町民意見交換会 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画期間5か年の間で具体的に進める事業について整理を実施 ・計画策定予定年(令和4年度中)の次年度から円滑な事業実施に向けた土台を構築 ・町内公共交通事業者との協議を継続してきたことにより、事業実施にも協力的な関係を構築 ・タクシー運賃の低廉化措置について、北海道運輸局からのご助言もいただき、全国的な事例を参考にしつつ、柔軟に対応予定 ・計画内容について、今後町民からの意見を聴取予定(意見交換会として形式を取るか、パブリックコメントによる意見集約とするかは、今後の新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を踏まえ判断) ・関係者ヒアリングについては、ルンるん号のエリア拡大や道道936号における自由乗降区間の廃止・代替交通の導入に関する利害調整を実施し、今後の事業実施に向けた関係者調整が完了 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中に地域公共交通計画を策定予定 ・現段階では、評価指標の頭出しの段階であるが、次回協議会時には目標値も入れ込んだ最終的な地域公共交通計画を協議予定 <p>対象区域:今金町全域 計画期間:令和5年度～令和9年度 計画の将来像: ふれあい今金「まちづくり」を実現する 安心して生活できる公共交通網の構築 ～人のおでかけや生活を支え、未来を拓く交通網の構築～</p> <p>基本目標1:持続可能な”ドア・トゥ・ドア”で快適な生活移動を確保 基本目標2:生活移動の幅を広げる”公共交通”で安全な生活移動を確保 基本目標3:地域内資源である2ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保 基本目標4:生活圏を考慮した”地域間幹線系統の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保 基本目標5:公共交通をより身近に感じられる”利用促進策の展開”で公共交通を便利と感じる意識を情勢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は、計画どおり実施されている。 ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。 ・昨年も調査事業を活用されていることもあり、様々な意見や課題について検討を重ねてこられたと思われるため、課題等を反映した地域公共交通計画をぜひ策定いただきたい。 	

今金町地域公共交通活性化協議会

令和3年3月30日設置



概要

今金町は日本を代表する清流である後志利別川と緑豊かな平野と丘陵が広がり、総面積は568.25km²で、人口4,804人（令和4年10月末現在）であり、昭和55年時点と比較し、約半数まで減少している一方で、高齢化は進行を続け、令和2年時点で41%と町民の約2人に1人は高齢者という状況である。

本町内を運行する公共交通は、函館バス（株）により2路線3系統が運行しており、また本町独自の取組としてデマンド運行型のルンるん号をまちなかと郊外部4方面に運行させている。

一方、これら公共交通について、人口減少や少子高齢化の進行など社会情勢が変化する中で、地域公共交通への町民ニーズが変化しており、これら変化に対応するとともに、昨今の交通事業者の運転手不足等の諸問題への対応も含めた公共交通網の見直し方針を示すことが求められている。

○地域公共交通の現況

- ・函館バス(株) (せたな線(721系統、743系統)、快速瀬棚号(710系統))
- ・今金町 (まちなかルンるん号、ルンるん号(八束・白石方面、金原・豊田方面、日進方面、田代・稲穂方面)、スクールバス、患者輸送バス)
- ・東ハイヤー
- ・その他 (通学定期券運賃補助事業、福祉有償運送実施事業)

○地域公共交通の課題(一部抜粋)

- ・高齢化の進行も踏まえた市街地の移動水準の維持・確保
- ・既存公共交通(路線バス、デマンド等)維持・確保
- ・デマンド交通の路線統合・エリア拡大の可能性検討
- ・道道936号線運行区間における代替交通の必要性検討
- ・町内を運行する公共交通に係る周知の徹底
- ・町民の生活圏を踏まえた、町内交通と幹線交通との接続性の確保

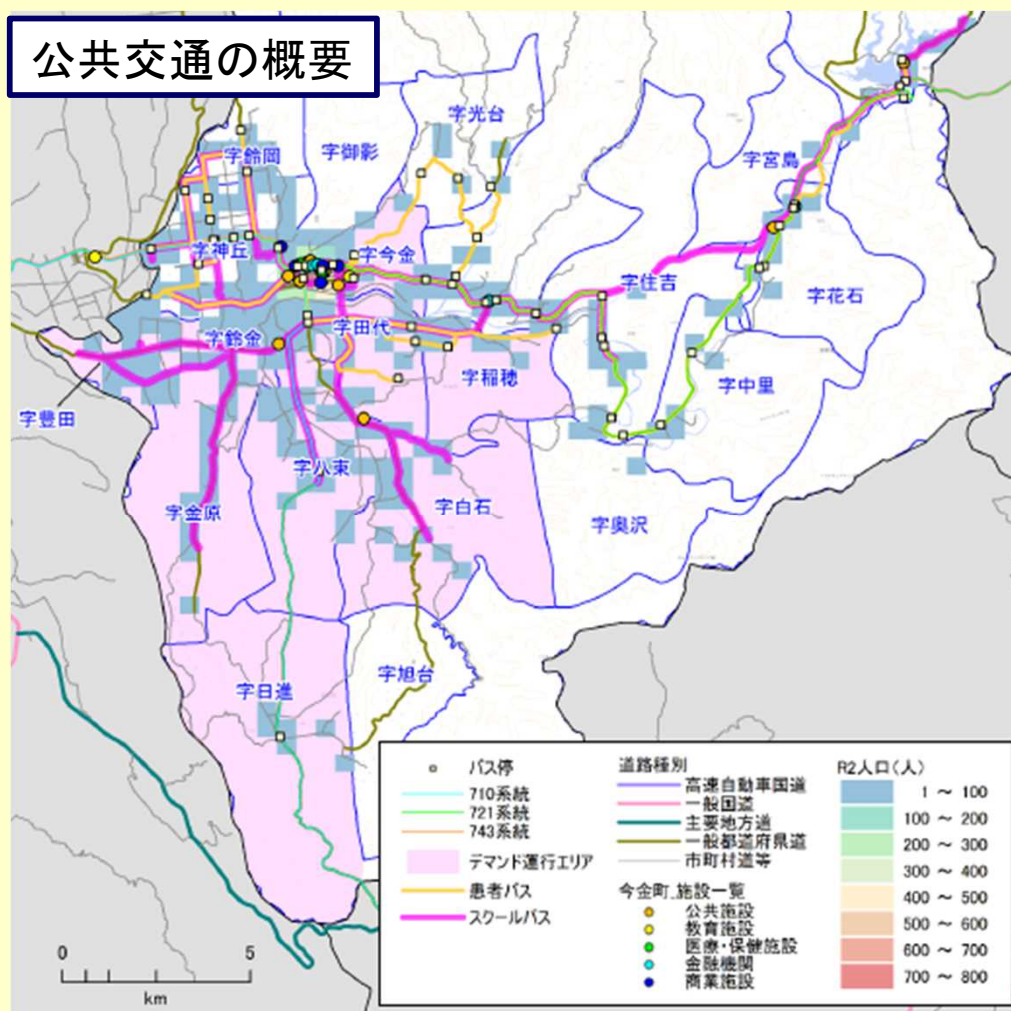
○調査の主な内容

- ・地域公共交通計画(案)の作成
- ・関係者ヒアリング・町民意見交換会

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和4年6月13日 第1回協議会を開催(書面会議)
(地域内フィーダー系統確保維持計画の承認)
- 令和4年7月13日 第2回協議会を開催
(役員を選出、収支決算及び収支予算案の承認等)
- 令和4年11月11日 第3回協議会を開催
(地域公共交通計画(素案)提示、事業評価の承認)

公共交通の概要



今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

1. 地域公共交通計画（案）の作成

- ・令和3年度に検討した結果に加え、後段で整理する「2、関係者ヒアリング・町民意見交換会」の結果から、本町内を運行する各種公共交通の役割を整理するとともに、計画期間5か年の間で具体的に進める事業について整理を実施
- ・これにより、計画策定予定年（令和4年度中）の次年度から円滑な事業実施に向けた土台を構築

移動圏域	移動目的	現在公共交通での確保状況	再編後の公共交通の確保状況
町内	通勤・通学	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）
	買い物	ルンるん号	再編後ルンるん号
	通院	ルンるん号 患者バス	再編後ルンるん号 患者バス
	私用	ルンるん号 患者バス	再編後ルンるん号 患者バス
町外	通勤・通学	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・瀬棚線（743系統）
	買い物	幹線交通 ・瀬棚線（721系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統）
	通院	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）
	私用	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）	幹線交通 ・瀬棚線（721系統） ・快速瀬棚号（710系統）

図1 本町における公共交通の役割

事業2 ルンるん号未運行地域への運行エリアの拡大

概要

現在、ルンるん号が運行していない「鈴岡・神丘の西部地区」において、事業1で行うエリア統合による運転手及び車両の活用や当該地区を運行する患者バスの交通資源を活用し、ルンるん号のエリア拡大を行います。
エリア拡大を行うルンるん号を含め、全ルンるん号の路線については、本町から必要となる運行経費を捻出するとともに、地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金等を活用し、運行維持確保を行います。

具体的な内容

①運行対象エリアの検討

本町市街地で交通空白地域となっている「鈴岡・神丘の西部地区」をルンるん号の新規運行エリアとします。

②交通資源の活用

現在、「鈴岡・神丘の西部地区」には患者バスが1日2便、通院もしくは入浴を目的とした移動でのみ利用が可能な状況ですが、利用目的及び運行時間帯の拡大を目的として、患者バスの交通資源を活用し、ルンるん号としての運行に転換することの検討・調整を行います。

③運行サービス水準の検討

現在、運行しているルンるん号の運行サービス水準を踏襲し、5便/日の運行便数を確保します。なお、運行曜日についても、現行ルンるん号の運行曜日を踏襲し、月曜日から土曜日までの週6日運行とします。

また、国庫補助金の活用も見据えているため、ルンるん号への転換の際には、有償での運行を想定しています。

八東・白石地区 予約バス「ルンるん号」時刻表 【予約先】東ハイヤー TEL.82-0166 FAX.82-0176

●行き先（月曜日～土曜日運行、祝日は運行）		●ルンるん号（月曜日～土曜日運行、祝日は運行）									
種別	時刻表	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平日	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30
休日	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30

図5-6 ルンるん号（八東・白石方面）の運行便数

実施主体

協議会、交通事業者、今金町

実施スケジュール

計画策定	計画推進					
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定	●	●	●	●	●	●
	●	●	●	●	●	●
		●	●	●	●	●
			●	●	●	●
				●	●	●
					●	●
						●

図2 地域公共交通計画で位置づける事業（一例）

今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

2. 関係者ヒアリング・町民意見交換会

- 町内公共交通の運行事業者である「函館バス株式会社」及び「有限会社東ハイヤー」を対象に、ルンるん号のエリア拡大や道道936号線における自由乗降区間の廃止・代替交通の導入に関する利害について、ヒアリング調査を実施
- ヒアリング調査結果から、本町における地域公共交通計画の事業1「現ルンるん号の利用実態を踏まえたエリア統合」、事業2「ルンるん号の未運行地域への運行エリアの拡大」、事業3「瀬棚線（721系統）における道道936号線運行区間の短絡化」、事業4「道道936号線沿線におけるタクシー助成制度の新設」の内容を整理
- 特に事業4「道道936号線沿線におけるタクシー助成制度の新設」については、令和2年の地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部改正により、新たに定められた制度であり、北海道運輸局もヒアリング対象とし、事業実施に係る可否についてヒアリングを実施
- タクシー運賃の低廉化措置については、全国事例も参考にしつつ、柔軟に対応すること予定
- 計画内容について、今後町民からの意見を聴取予定

6. 代替交通導入に向けた課題

課題1： 道道936号（自由乗降区間）の運行廃止に向けた準備事項の把握

課題2： 代替交通の運行サービス内容の検討（利用者目線ともリンク）

7. 各社様から教えていただきたい内容

対象事業者様	教えていただきたい内容	アウトプットイメージ
函館バス株式会社様	<ul style="list-style-type: none"> 瀬棚線（721系統）のバイパスへの一部運行便の路線振り替えについて、可能な便はどの便でしょうか。 振り替えが可能な場合について、社内でのコンセンサスに必要な期間はどの程度でしょうか。 ※コンセンサスを行うのに、必要な資料整理があれば、それについても教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の利用状況も踏まえて、振り替え可能な便を把握 せたな町、長万部町、振興局との協議や各自治体の協議会等で承認を得ることも必要なため、その時期について検討を実施
有限会社東ハイヤー様	<ul style="list-style-type: none"> ハイヤーの保有台数及び運転手数について、教えてください。 通常業務の内容（ハイヤー事業の運行状況）について、教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 東ハイヤー様としての事業拡大の可能性を把握
	<ul style="list-style-type: none"> 瀬棚線（721系統）バイパスへの一部運行便の路線振り替えに伴う代替交通の運行を行う場合、現在の車両数、運転手数で賅うことは可能でしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 代替交通の運行可能性について把握

図3 ヒアリング資料一部抜粋

事業4 道道936号線沿線におけるタクシー助成制度の新設

概要

幹線交通「瀬棚線（721系統）」の国道230号花石道路の運行に伴い、交通空白地域となる道道936号線沿線地区において、自宅付近まで送迎が可能なタクシー助成制度の新設を検討します。

具体的な内容

① タクシー助成制度のあり方検討

タクシー助成制度を新設する上で、令和2年に改正された地域公共交通の活性化及び再生に関する法律により、実施が可能となった「乗用タクシーの運賃低廉化措置」など、既存交通資源を活かした助成制度のあり方を検討します。

令和3年度 地域公共交通確保維持事業費補助金交付要綱の改正 国土交通省 九龍運輸局

① 地域間幹線系統及び地域内フィーダー系統（運行費、車両補助）の補助対象事業者と補助要件

・補助対象事業者を活性化協議会とする ※幹線系統は引き続き単独事業者を補助対象事業者とする
 ・生活交通確保維持改善計画の策定・認定を補助の要件としているが、活性化再生活に規定する
 地域公共交通計画における地域公共交通確保維持事業に関する内容の記載・認定を補助の要件とする。

② 地域旅客運送サービス系統事業に関する補助制度の新設

・地域実証計画策定事業（補助対象：地域実証計画の策定調査に要する経費）
 ・地域実証計画策定事業（補助対象：利用促進に係る事業、計画の達成状況等の評価に係る事業）
 ・補助率：1/2

※継続実施計画策定事業の補助上限額は500万円

③ 乗用タクシーの運賃低廉化措置に関する補助制度の新設

・自治体が高齢者などに配布するタクシー乗車を補助するチケットなどを想定し、それらが交付要件の要件に合致すれば、市町村が支出したチケット費用（運賃補助額、チケット発行費用等）に対して補助するもの ※地域内フィーダー系統となるため、新規性要件等あり
 ・補助率：1/2（上限100万円）

④ 経路措置

令和6年度予算に係る事業までの間は、従前の制によることができるが規定

出典：国土交通省九州運輸局
 図5-8 タクシー運賃低廉化措置の概要

助成の経緯	・市独自で運行するバスが廃止となり、地域の需要が小規模であることから、乗用タクシーの助成を実施
対象者	・市郷地区の60歳以上（利用登録が必要） ※登録者以外の家族や知人も乗乗りが可能
運行範囲	・自宅と指定乗降場所の間
運賃	・1乗車500円
その他	・地区内の各世帯から年間2000円の負担金を徴収

図5-9 山形市市郷地区で実施しているタクシー運賃低廉化措置の事例



実施主体

協議会、交通事業者、今金町

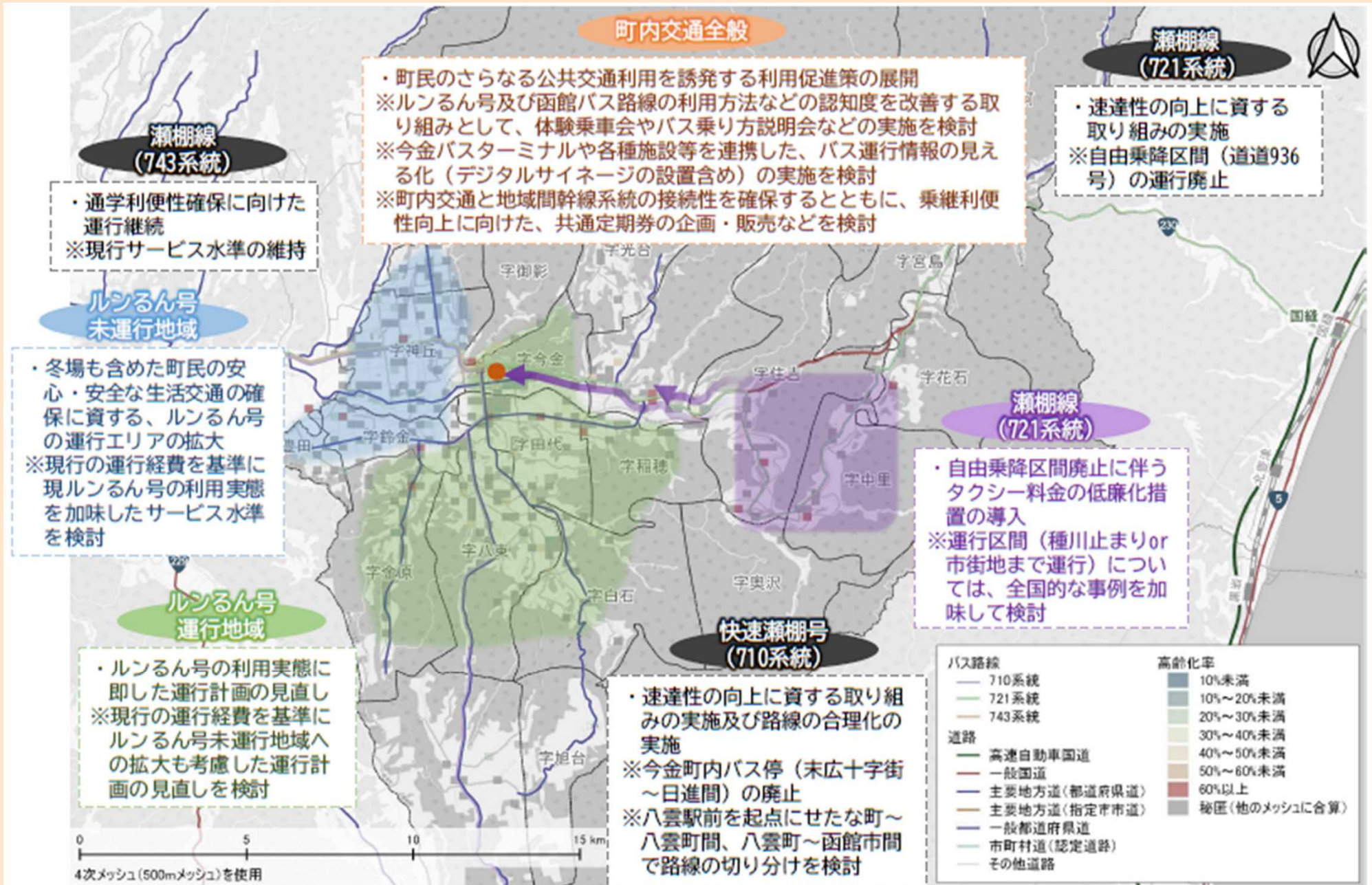
実施スケジュール

計画策定	計画推進					
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
●						
		協議・調整が完了し次第、運行内容を見直し				

図4 地域公共交通計画で位置づける事業（事業4 タクシー助成制度の新設）

今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針



今金町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

将来像 ふれあい今金「まちづくり」を実現する安心して生活できる公共交通網の構築

基本目標1	基本目標2	基本目標3	基本目標4	基本目標5
持続可能な“ドア・トゥ・ドア”で快適な生活移動を確保	生活移動の幅を広げる“公共交通”で安全な生活移動を確保	地域内資源である“ハイヤーの活用”で利便性の高い生活移動を確保	生活圏を考慮した“地域間幹線系統の見直し”で将来にわたって広域圏の生活移動を確保	公共交通をより身近に感じられる“利用促進策の展開”で公共交通を便利と感じる意識を醸成
事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
①現ルンるん号の利用実態を踏まえたエリア統合	②ルンるん号未運行地域への運行エリアの拡大	③瀬棚線（721系統）における道道936号線運行区間の短絡化 ④道道936号線沿線におけるタクシー助成制度の新設	⑤地域間幹線系統のサービス改善及び合理化の交通事業者への提案	⑥利用促進キャンペーンの実施 ⑦予約システムやバスロケの導入検討 ⑧運賃助成の取組の実施
数値目標	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
現ルンるん号の運行路線数及び運転者数・車両台数	再編後ルンるん号の利用者数及び収支率、カバー圏割合	瀬棚線（721系統）の利用者数及びタクシー助成制度利用者数	函館バス路線利用者数及び「今金」バス停での乗降者数	情報発信イベント等の開催数及び見える化サービス導入件数

●事業実施の適切性

事業実施は適切に実施したと評価しており、特に計画策定時から事業者と協議を行ってきたことで、来年度以降の事業の動き出しが円滑になることが予想される。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり実施されている。
- ・引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・昨年も調査事業を活用されていることもあり、様々な意見や課題について検討を重ねてこられたと思われるため、課題等を反映した地域公共交通計画をぜひ策定いただきたい。